

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 坂下高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月26日(金) 13:30~16:30
- 3 開催場所 坂下高等学校リハビリ実習室
開催にあたり、委員による学習成果発表会参観を実施
一部委員については書面による参加
- 4 参加者

会 長	小幡 隆徳	坂下まちづくり協議会理事(書面)
副会長	鎌田 則之	やさか観光協会会長(書面)
委 員	須栗 大	中京学院大学教授 連携推進部長
	村田 純一	坂下公民館長
	尾石 光正	坂下中学校長(書面)
	竹入 康治	坂下小学校長(欠席)
	山内 尚子	本校同窓会長
	長瀬 愛	中津川市社会福祉協議会地域福祉課(書面)
	桂川 容子	Charm Mates 会員
	青山 里歌	本校保護者代表
オブザーバー	森 益基	岐阜県議会議員(欠席)
	成瀬 博明	中津川商工会議所専務理事
	岩久 義和	中津川市教育長(欠席)
	深津 広樹	中津川市定住推進部長
	廣瀬 竜也	坂下総合事務所長(欠席)
学校側	田並 千穂	校長
	足立 幸司	教頭
	古田 和幸	事務長
	板津 裕也	教務主任
	勝川 誠	生徒指導部長(欠席)
	三輪 祐太	進路指導部長
	岡本 拓郎	地域探究科主任
	林 尚志	地域連携コーディネーター

5 会議の概要（協議事項）

（1）令和5年度自己評価について

（2）「咲明日高校マルシェ」について

意見1：昨年度より規模が大きくなっているが運営がスムーズであり、マルシェに参加した大学生も驚いていた。生徒にとっては学ぶことも多く成長の場となっている。学校にとっても地域にとっても必要な行事となっており、来年度以降も継続して開催してほしい。

意見2：生徒自ら働きかけて実現した企画もあるなど、来校した中学生があこがれを持つような取組をしている。

意見3：昨年度開催のマルシェについて、「よかった」という口コミが地域で広がり、本年度足を運んだ方もいた。地域の活性化に貢献している。

意見4：生徒の生き生きした姿がとても気持ちよかった。あれだけの規模で実行するには相当の時間と労力を要すると思うが、準備等、当日までの過程に興味を持った。

意見5：生徒と職員で作上げていく段階や当日の体験で、座学では得られない学び・成長があったことが生徒の感想から読み取れる。

意見6：大盛況でよかったが規模も大きくなり大変だったのではないかな。外部の力を借りることも考えてよいのではないかな。

（3）令和5年度取組のまとめと課題について

意見1：デュアルシステムや咲明日高校マルシェ、中京学院大学との高大連携、小中学校への出前講座等、地域連携や新たな事に積極的に取り組んでおり、教員からとても熱い思いが伝わる。

意見2：「個々の生徒に寄り添った教育」「特色ある学科（地域探究科・福祉科）への取組」「地域連携による学校の活性化」は【特色ある坂下高校】を押し出すポイントである。「広報活動」と合わせ、しっかりとブラッシュアップしてアピールしてほしい。

意見3：福祉科の「出前授業」は中学生等に好印象を与えている。このような取組をおこなうことで福祉への興味が高まり、選択する生徒が増えてほしい。

（4）意見交換

意見1：学習成果発表会では、人数が少ない中でできることを精一杯行っていた。また防災や地産地消についての探究活動を含め、小さい子から高齢者までのことを考えた取組を行っている生徒には感心した。

意見2：探究活動では失敗から何を学び、どう活かすかを考えていた。手厚い指導で成果につながっている。さらに学習していることを上手く地域に発信できると良い。また地域と連携する探究内容はたくさんある。

意見3：学習成果を外部に発信しつつ、生徒の成長を促すことは大変である。来年度の成果発表会では生徒が原稿を持たず発表できるとよい。また、以前ゼミの活動を見たが、様々な活動が一つの部屋で行われており非常によい取組である。ゼミ活動の行い方などのモデルケースとして情報発信ができるとよい。

意見4：今は座っていれば知識等を与えられるわけではなく、自らが行動しないといけない。生徒自ら動かざるを得ない状況を作り、探究活動をさせていくことが大事である。

意見5：生徒も教員も忙しそうであるが、それでも教員は多様な生徒がいる中で、それぞれの生徒に寄り添って教育活動を行っている。

意見6：地域の高校として、根付きつつある（根を太くしつつある）と感じる。

意見7：本校は進路指導・生徒指導等とても魅力ある高校である。また福祉科についても各機関と連携しながら福祉の魅力について発信できたらよい。

(5) オブザーバーから

意見1：探究テーマについては坂下地域をクローズアップしてもらえるとよい。また、データをとって強み弱みを分析するなど、マーケティングをしっかりとしてプレゼンテーションに活かしていくとよい。恵那地区のどの学校も生徒募集については苦しんでいるが、魅力を出して少しでも多くの生徒に入学してもらえるようにしてもらいたい。

意見2：自分たちで考えて行動していることが素晴らしい。デュアルシステムで学校と各企業がつながっており、地元就職についても100%でこの地域に貢献していることは素晴らしい。この地域にも人口減少という課題があるが、若い人が愛着をもってもらえるように、様々な機関と学校がチームを組んで取り組んでいけるとよい。

6 会議のまとめ

- (1) 「咲明日高校マルシェ」は、昨年に引き続き2度目の開催であったが、地域での認知度のアップ、生徒の取組内容、また当日の生徒の活動場面等、「咲明日高校マルシェ」が生徒の学習の場としてさらに充実したと、多くの委員に高く評価していただけた。今年度の反省を活かしながら、ぜひ来年度以降も続けてほしいという意見がほとんどであった。
- (2) 地域との連携をさらに深め、生徒が活動している場面を地域の方々や中学生に知ってもらうことはもちろんだが、様々な機関と連携をとり、各機関の協力を得ながら本校の魅力を効果的に発信していきたい。